株式會社 大島造船所

http://www.osy.co.jp

7

ESSENCE OF

GLOBULK!

(GLOBAL + BULK)

大島造船所を地球規模で理解するための７つの視点。

BULK ENDURANCE
MARITIME EXPLORER

ESSENCE 1

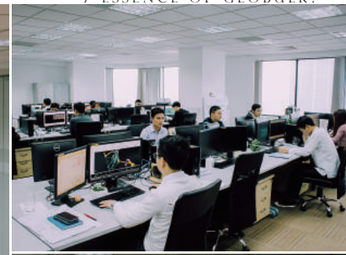
大島造船所は、建造隻数で国内トップ3の一角を占める特色ある造船会社。「バルクの大島」といえば、国内はもちろん世界の海運・造船界で広く知られたブランドネームです。バルク（BULK）とは、数ある商船の中でも最も需要が高く、用途も広い「バルクキャリアー（ばら積み貨物船）」のこと。大島造船所は建造する船種をバルクに絞り、バルクに関するあらゆるニーズに対応できる懐の深い建造体制を確立しました。洋服でいえば、ありふれた既製品の量販店ではなく、一品対応のオーダーメイド専門店にも似た存在感。そのオンリーワンの技術力が世界規模で評価されて受注先の海外比率が年々高まり、建造オファーをいただく船会社はデンマーク、イギリス、カナダ、台湾など、ヨーロッパを中心に世界11カ国に広がっています。もちろん日本の海運業界の信頼も厚く、日本郵船さん、商船三井さん、川崎汽船さんの大手3社をはじめ多くの船会社と、長年の取引関係が続いています。創業以来、愚直なまでにバルクの建造に情熱を注ぎ続けた大島造船所。7つの海を超えて広がった「どんなに特殊なバルクも、OSHIMAなら安心して任せられる」、そんなグローバルな定評が、何よりの誇りです。

世界11か国から、7つの海へ。

ESSENCE 2

海運界のメッカ・オスロに自社拠点。

いきなりですが、問題です。デンマーク、香港、シンガポールなど、数ある海運国の中でも際立った存在感を持つ北欧の国といえば？　答えは、ノルウェー。古代から船を自在に操り、ヨーロッパ全域に交易網を広げた歴史を持つ海運大国です。首都オスロには世界的な海事機関が集まり、1年おきに開催される海事展「ノルシップ」には世界中の造船所や舶用機器メーカーが出展します。いわば、世界の海の首都。大島造船所がロンドンでもベルリンでもなく、オスロにヨーロッパ事務所を置いている理由もそこにあります。ヨーロッパ事務所は、世界の海事情報が集まる船級協会やヨーロッパの船会社との共同プロジェクト、海運に関する情報収集や調査を行うほか、新規商談や技術面のアフターフォローの拠点としても機能。設計部から2年交代で赴任する常駐スタッフのほか、商談や仕様打ち合わせに臨む営業担当や技術者、ノルシップへのブース出展を仕切る設計担当など、多くの社員が“オスロ出張”を経験します。そもそも、オスロに限らず大島造船所では海外出張の機会が豊富。普通に出張を重ねるうちに、気がつけば訪問国が10カ国を超えた…そんな社員も珍しくありません。



ESSENCE 3

ひとくちにバルクといっても、積み荷や航路によって形態も機能も千差万別。大島造船所では、穀物や鉄鉱石など、幅広い積み荷に対応できる3万トン～10万トン級の中型バルクを中心に、石炭運搬船やチップキャリア、苛性ソーダ運搬船といった用途限定の特殊なバルクまで、多種多様なバルクを手がけています。中でも、ロールペーパーやスチールパイプといったデリケートな積み荷に対応するオープンハッチバルカーは大島造船所の独壇場で、世界一の建造実績を誇ります。大島造船所が世界の海に送り出したバルクは累計800隻超。ドック1本で年間38隻の連続建造を成し遂げる生産性は、世界の造船界で大島造船所だけが到達できた境地です。この世界一とも称される高い生産性を支える要素のひとつが、大島造船所がベトナム・ハノイに置いた設計会社。100人を超える現地エンジニアが主として詳細設計を担い、世界有数の連続建造体制を下支えしています。ちなみに現地では、日本語が社内公用語。教育担当は、20代を中心とする大島造船所の若手設計者が務めます。現地エンジニアにとっては設計スキルを効率よく磨くチャンス、社員にとっては経験の幅を広げるための願ってもない機会となっています。

「バルクの王者」のバックボーン。

ESSENCE 4

多種多様なバルクを建造できるということは、オーダーメイドのカスタマイズド設計に対応できる高い技術力の証です。その最新の成果が、自社独自開発の完全電池駆動フェリー「e-Oshima」。MHIマリンエンジニアリングと共同開発中の自動操船システムを搭載する日本最大級（全長35m）の完全電池駆動船で、国交省指定の実証実験船として注目を集めています。2019年6月に完成予定で、実証実験を進めて行きます。当面は、船会社のオーナーなどゲストの送迎船として活躍します。自動運転の電池自動車に先駆けるように、自動操縦の電池駆動船が世界の海を行き交う未来。e-Oshimaの活躍は、その記念すべき最初の一歩となるかもしれません。このほか、従来の重油に加えて環境負荷の小さいLNG（液化天然ガス）を燃料とするデュアルフューエルのバルク建造技術を独自に完成。また世界一の建造実績を持つオープンハッチバルカーも、積み荷を安定させる正確な方形の船倉、甲板に装備したガントリークレーンなど、他社の追随を許さない独自技術の結晶です。開発力の向上に重要な役割を果たしているのが、工場内の試験水槽。テストサーキットを持つ自動車メーカーさながらに、自前の試験水槽を備えていること自体が、世界で勝負するための大きなアドバンテージになっています。

世界を瞠目させる技術力。

ESSENCE 5

船づくりの現場は男の世界。そんな固定観念は、少なくとも大島造船所では前世紀の遺物となっています。21世紀前夜の1999年（平成11年）、大島造船所では建造現場で活躍する女性社員の採用が本格的にスタート。造船業界では異例ともいえる先駆的な試みとして、広く話題を呼びました。その後も定期採用を継続し、現在では40名超の“造船女子”が組立、溶接、艤装など、建造部門のそれぞれの持ち場で活躍中。結婚、出産を経て現場に復帰する“造船ママ”も続々と誕生しています。造船女子の活躍分野は建造部門だけではありません。管理部門をはじめとする各部門の事務職はもちろんのこと、計画設計、基本設計、詳細設計などの設計部門を合わせて、総計100人以上の女性社員が日々の業務と向き合っています。大島造船所は、長崎県第二の都市・佐世保市までフェリーで25分、車で50分の大島に立地。技術知識やスキルを生かすだけでなく、美しい海に囲まれた大島の自然を日々体感しつつ、アフター5を手軽に楽しめる大島造船所の環境が、多くの女性を惹きつけているようです。

「造船女子」も、大島ブランド。

ESSENCE 6

一言でいえば、ボーダレス。それが大島造船所の職場環境です。社内各部門に、中国、インド、ベトナム、ウクライナ、ミャンマーなど、世界8か国出身の社員が在籍。ドック周辺や岸壁では常時、フィリピン人の船長、中国人の機関士や一等航海士など、引渡後の教育や海上試運転に参加する外国人船員が行き交っています。また海外出張のほか、若手社員を中心にノルウェーやギリシャの海事展を見学する海外研修も組まれます。こうしたボーダレスな職場の必須項目といえば、やはり英語。そこで大島造船所では、半年間にわたって英語漬けになるイギリス研修と、フィリピンでの1か月の語学研修の2本立てで、社員の英語習得をバックアップしています。イギリスではケンブリッジの語学学校に通いながら、ホームステイ。フィリピンでは現地語学学校の寮で生活します。座学だけでなく日々の生活場面から英語に親しむことで、会話力の短期習得を目指すプログラムです。参加者は、20代の若手社員を中心にイギリス研修が毎年2名、フィリピン研修は約10名。しばし持ち場を離れ、海外で暮らしながら語学を学ぶ日々。参加者の多くが帰国後、懐かしそうに、また楽しそうに、語学研修の思い出を語ります。

社員のグローバル化も応援。

7 ESSENCE

大島造船所では今、２つの建設プロジェクトが進行中です。ひとつは、工場の敷地拡張。現在の工場に隣接する敷地に、最新鋭技術を投入した次世代工場を新設するプロジェクトです。新工場では、ロボットを大規模に導入し、知能化・自動化・省人化を究めた画期的な建造体制を目指す構想で、2024年以降の完成に向けて準備を進めています。完成後の敷地面積は、福岡ヤフオクドーム12個分に相当する現工場の約1.3倍。また新工場には最先端の革新技術に挑む実験棟も新設する予定です。ごく近い将来、「バルクの大島」のブランドがさらに輝きを増すことになりそうです。さて、もうひとつのプロジェクトは独身寮の新設。勁草寮（けいそう）と命名された新独身寮は、地上5階建て・全300室。もちろん全室個室で、バス・トイレに加えて最速のネット環境も完備しています。さらにはテラスがついて、10畳という広さ。豪華なうえに至れり尽くせりの勁草寮の寮費は、月額わずか5910円。想像してみてください。昼は最新の技術テーマに挑み、夜は快適な環境で気ままに過ごす社会人生活。「ちょっといいかも」と思った人、一度ゆっくり、ここ大島を訪れてみませんか。

また一歩、世界をリードする。

七つの海へ、
最高峰のバルク船を
届ける島がある。